R4 文化的施設「町民説明・意見交換会」発言要旨【大正会場】

日　　時： 令和 4 年 11 月 1 日（火）18:30～20:00
場　　所： 地域交流センターたのの
参 加 者： 18 名
託　　児： 認定こども園から保育士 2 名、利用なし
取　　材： 高知新聞・四万十 CATV
役　　場： 中尾町長、山脇教育長、味元生涯学習課長、大元政策監、
大河原室長兼図書館・美術館館長・西尾次長・冨永主査・松下主任(文化的施設整備推進室)
配布資料： ① 令和 4 年度　文化的施設「町民説明・意見交換会」資料
② 文化的施設チラシ No.15「配置・平面計画が決定しました」
③ 〃 No.19「外観や施設内のイメージ発表」
④ イベント「四万十駄場フェス（11／23㊌開催）」案内チラシ

1．開会あいさつ（町 長）
2．職員紹介
3．事業説明（40 分程度）
(1) これまでの経過と今後の予定
(2) 実施設計の結果
(3) 町の財政見通し
(4) 現状と課題の確認
(5) サービス計画と施設の必要性
4．質疑応答・意見交換
5．閉会あいさつ（教育長）

【開会あいさつ】
町　長：文化的施設も平成 28 年から議会で議論を頂いてだんだんに進んできたが、如何せん 7 年目において、今回 4 割近い大きい増額になった。発注しても 14～16 か月かかるわけなので、そういったことも考えた時には、議会の中でもそれぞれご意見をいただいたが、「住民の皆さまにしっかり説明をして、町の考え方、町民の意見を受け入れて今後の判断をせよ」と言われたこともあり、今日はそういったことも含めて出向いた。最後の仕上げの時期だが、しっかり皆さま方のご意見を聞いた上で、行政の中でやるべきこと、それぞれ意見いただいて行政に反映したいと思っているのでぜひ率直に腹を割った意見をいただきたい。私自身 9 年目でございますけども、この案件については慎重に進めている。将来の子どもや地域の知の拠点として進めてきたが、ここはいったんこの時期に皆さんの意見を聞きながら最終判断をしたいと思っている。

【意見交換内容】

町民Ａ：移動図書館についてもう少し詳しく説明してほしい。

職　員：導入しようとしている車は軽四トラックを改造したもので、イメージとしては「とくし丸」が近い。そこに本を積んで町内を回る車ができることになる。例えば施設やデイサービスをやっている場所、放課後子供教室など施設から遠い場所を中心に図書館から出向いていき、本の貸し出し、予約の受付、読書の相談、読み聞かせ、資料の問い合わせ(レファレンス)といった外に出ていく「小さな図書館」として町内を回っていく。

町民Ａ：利用がどんなものか。例えば、下津井など本を借りに来れない人がいる場所まで回るのか。この間、ふれあいサロンでそのことがちょうど話題になった。デイサロン利用者に聞くと、「目も薄くなっているので利用するもんかよ」という声が返ってきた。運転手と本の専門の人２人が乗ってこないといけず、十和にも図書館ができる中で、移動図書館の利用があればいくらお金がかかってもいい。しかし、今、大正分館を利用している人も非常に少ない。過疎の上に過疎を重ねてはいけないが、果たしてそこに移動図書館が入っていって留守番している一人暮らしの人が本を借りる気持ちになるのか。それならバスで大正分館に出ていくほうが人にも会える。どんな風に運営を考えているのか。お金もかかる。移動図書館の意味をみんなが心配している。ほかの市町村もこういうことをやっているのか。

職　員：私が以前いた津山市もやっている。学校や施設など毎月 20 か所程まわっている。やはり生活の時間と合わないと利用しにくいということもあるが、例えば十和分館ができるまでまだ数年はかかるところで、皆さんに来てくださいではなく、なるべく皆さんの近くまでお持ちしたい。ただおっしゃられるようにどなたも利用いただけない施設にあえて行くというよりは、まずは人が集まっている場所、期待できる場所から始めさせていただく。少しずつ調整をしながら進めていきたい。また、十和分館の整備後はルートも変わると思うが、機動性を生かし、イベントへの出展や学校や様々な場所での活動を考えられる。ご指摘の点はその通りと思うので、調整しながら運用していきたい。

職　員：大河原は岡山県津山市の図書館長を務めていた。知見と経験を生かして、ご意見も踏まえながら検討していきたい。

町民Ａ：教育長もいらっしゃるので、いつも言うが、大正分館には来たことない子もいる。よそから来た子は図書館があるから助かったという声もよく聞く。子どもたちにも「楽しい図書館」ということを印象づけてほしい。

町民Ｂ：ランニングコストはおおまかなコストか。確実にこれから要るコストか。8 千万で施設が維持できるのか。後々大変なことにならないか心配。

職　員：「後から増えました」では困るので、我々もかなり厳しくみている。かなり厳しくみた結果なので、この範囲内に収まるようにする。一方ここで増えた分は、人材育成や生涯学習など同種のものとの調整・統合・役割分担しながらやっていきたい。ただ増やすのではなく、減らせるところは減らしながらやっていきたい。８千万あれば問題なくやっていけるとみている。現在の図書館・美術館は４千万かかっている。そこから４千万増えるということが、現状は雇用がない司書や学芸員など専門職員を配置し、運営していく人も加味した８千万円。人件費は、たとえ施設ができなくても、図書館・美術館を運営していく町として整備していくべきと考えている。

町民Ｂ：頭に８千万をいれておくのでその範囲で極力維持してほしい。また、障がい者用の駐車場が２台では少ないのではないか。スーパーでも普通は2、３台はある。せっかくなのでもう少し増やす計画を立ててもらいたい。

職　員：(ちらし No.15 参照)駐車場は敷地内(下段・上段)、旧都築邸周辺など敷地外にもある。現在、旧都築邸やあさぎりさんと相談しながら周辺一帯で共同で使える駐車場にする調整をしている。敷地内では障がい者駐車場は２台だが、旧都築邸や商工会側に何台か整備できたほうがいいのではないかと考えている。この建物の入口は３か所ある。そういった意味でも分散していけたらと思っている。駐車台数は全体で敷地内と周辺とあわせて 60 台程度を計画している。

町民Ｃ：駐車場下 12 台、上８台だが、２階からの入り口はあるのか。

職　員：２階に駐車場を作る以上、２階にも入口を作るべきではないかと我々もかなり協議をしたが、図書館はだれでも来ていい場所になるので、あまりに入り口を増やすと防犯の点でかなり危ない。キッズスペースやティーンズコーナーなど子どもが集まる場所も設けている。責任を持って安全に運営できるようにするため、２階の入り口は断念した。

町民Ｃ：スロープをおりてきて、入り口③(ちらし No.15 参照)が一番近い場所か。

職　員：その通り。

町民Ｄ：p.15 の期待される効果に「定住者の増加」や「来訪者や移住者の増加」とあるがどういう繋がりか、具体的な考え方があるか。

職　員：移住者・定住者においては、子育て世代にとって教育環境が気になるところ。四万十町の学習の環境を整えていこうとする施設でもある。町民の幸福度、活動が活発になっていく道筋の上に、来訪者や移住者の増加を考えている。大東建託の大規模な調査による

と、「住んでいて幸せだと思う要件」に文化的な環境や図書館があるまちを挙げられていた。文化的施設があるまちということで移住者や来訪者の魅力アップにつながっていくと想像しているところ。

町民Ｄ：窪川を中心と考えていると思うが、高齢者ばかりになってきてこういう施設を利用したいという人も少なくなってきている。田舎に人は来ないようになると思う。施設を作っていけないわけではないが、その後の特に大正・十和の地域も一緒に考えた施設かどうかというのを教えてほしい。

町　長：移住者は確かに増え、令和３年度は高知市に次いでいるが、市街地に近いというところがある。町づくり推進室と「農山村の定住」を目指して進めている。令和５年度の予算には反映させたい。政策的には農山村への住宅政策をもって若者に入っていただきたい。大河原館長が言ったが、知の環境ができる。事業費の問題もあるが、文化的施設の整備によってレベルの高い環境をつくっていきたい。中心ではない地域へも定住・移住者を増やしていく施策を行っていきたい。山間地域の若者は減っているが、歯止めをかけるためにも是非やっていきたい。

町民Ｅ：事業費・着工の関係でいうと議会 12 月の定例会であれば間違いないだろうが、そうしないと令和６年度に間に合わない、というようなことを考えている。原点はみんなが学べる教育の場となるので、できるだけ早くその方向へ向けてほしい。20 億でもやってもらいたいという考えでいる。せっかくの僻地の中で、合併特例債や過疎債が使えて随分いいものができると思う。みんなが活動の場・教育の課題として捉えてもらえば安いもの。上手にやっていけば、いいものができていくと思う。中土佐町も黒潮本陣の近くに美術館ができる。中村にもできる。絵をかく文化人もいる。町民Ａも言っていたが、僻地に学校の旧校舎も残っているところもある。少子化の中でも、窪川には本屋があるが、大正にはなく、子供たちが本に親しめない。スマホに人気が高まってしまう。本を読んで学んでいただければと思う。目途をかっちりしていただいたら、令和６年度３月にはオープンしていただきたい。

町　長：事業費はなるだけ安くやってきたい決意。23 億は公費であろうが町費であろうが大切に使っていきたい。当初であれば 12 月にあげる予定だったが、議員より慎重に意見を聞けという声もあった。明日が十和、４日が窪川で意見を伺い、継続費の変更を 12 月か３月どちらかの議会で提案させていただきたい。できるだけ早く計上したいが、土地収用法の計画もあるので、努力目標としては 12 月で説明させていただきたい。一定課題の積み残しになれば、12 月から遅れる場合もある。順調にいけば、令和６年度中には完成だが、私も任期が３年半しかない。この事業も７年目。任期中には整備させていただき、生涯学習、地域のまちの交流含めて陣頭指揮をとっていきたい。

【閉会あいさつ】

教育長：文化的施設について、29 年度から皆さんに協議頂き、やっと基本設計、実施設計ができた。この文化的施設は窪川の施設だけのサービスではないということを住民の皆さんに知っていただきたい。子どもから大人、高齢者まで全世代、町民、皆さんへサービスが行き届く文化的施設でなければ意味がない。先ほど館長が申し上げたように皆さんと一緒に育て上げ、持続可能な魅力あるまちづくりへ繋げていかないといけないので、今後ともご意見・ご提案をお願いしたい。今後とも子どもたち、生涯教育の拠点、全域に広がるサービスの拠点としての施設に作り上げていきたいと思いますので、ご理解とご支援ご協力をお願いしたい。

R4 文化的施設「町民説明・意見交換会」発言要旨【十和会場】

日　　時：令和４年 11 月２日（水）18:30～20:00
場　　所：役場　十和地域振興局　２階　ホール
参 加 者：26 名
託　　児：昭和保育所から保育士２名、利用あり（３世帯５名）
取　　材：高知新聞
役　　場：中尾町長、森副町長、山脇教育長、浜田教育次長、味元生涯学習課長、大元政策監、大河原室長兼図書館・美術館館長、西尾次長・松下主任(文化的施設整備推進室)
配布資料：① 令和４年度　文化的施設「町民説明・意見交換会」資料
② 文化的施設チラシ No.15「配置・平面計画が決定しました」
③　　〃　　No.19「外観や施設内のイメージ発表」
④ イベント「四万十駄場フェス（11／23㊌開催）」案内チラシ

１．開会あいさつ（町 長）
２．職員紹介
３．事業説明（40 分程度）
(1) これまでの経過と今後の予定
(2) 実施設計の結果
(3) 町の財政見通し
(4) 現状と課題の確認
(5) サービス計画と施設の必要性
４．質疑応答・意見交換
５．閉会あいさつ（教育長）

【開会あいさつ】
町　長：今日の説明会に至った理由は、８月に議会全員協議会でご報告させていただいて、22 億円余りの事業費になった。当初想定していたのが 15 億９千万ということだったが、物価高も含め、資材の高騰があり、６億円余りが増加していた。その後、議会でご意見いただき、実施設計完了が 10/15 ということだったので、それまでに精査させていただき、少し下がっていたところだが、やはり今後の資材高を見たときに一定の余裕をみた上で、今日は数字も示しながら皆さんにご理解いただいて、さらには実施設計とともにサービス計画、図書館の使い方やスペースについても合わせて説明させていただきたい。加えて、これまで 29 年から、実質 28 年の地域の座談会でご意見いただいてから、検討委員会や様々なワークショップや議論をいただいて進めてきた。７年になるが、ぜひご理解いただきながら今後の方向性を考えたい。町の財源的な問題も議会からご指摘を受けているので、そういったところも精査をしながら、一定試算した中でやるのであればこういった数字になるということを示させていただいて、最終的に私自身も３期目に入

ったが、公約に掲げてきた以上しっかり進めていきたい。率直なご意見をいただきたい。この問題が窪川のみならず、大正・十和分館。十和分館については、まちづくり推進協議会からも要望をいただいているので一体的に進めていく中で、全町的な文化が推進できるまち、知の拠点、生涯学習の拠点ということで、整備を進めていく考えなので、引き続きご理解とご協力をいただきたい。積極的なご意見をいただき、素晴らしい施設ができるようにしていきたい。

【意見交換内容】

町民Ｆ：十和分館の進捗状況について共有いただきたい。

職　員：十和分館について、サービス計画において前向きな検討を明記している。十和まちづくり推進協議会でそもそもほしいか、ほしくないかから具体的な協議をしている。図書館としては十和分館として位置づけし、大正分館と同じように、本館から図書を回し、本は町内全域でやり取りをしていく。

町　長：本日、十和まちづくり推進協議会から提案もあった。事務局では移動図書館の開始など状況を踏まえ動いていた。今日の話を踏まえ、最終的な町としての判断をし、議会に上程するようになるかと思う。もし拠点となる文化的施設がなくなっても十和分館を整備したい。同時並行的にスピーディに、できれば任期中に取り組んでいきたい。議会に上程もし、取り組んでいきたい。

職　員：まちづくり推進協議会からの提案であり、必ずしもそこで決めていくということではない。来年以降の予算に反映できるよう進めていきたい。

町民Ｇ：p.９実質公債費比率について、学校の整備の話が出たと思うが、統合やそれに伴う施設の整備、老朽化による耐用年数も見込まれての数字か。

職　員：総合振興計画で今後３年間どういったことをやっていくか実施計画を策定している。学校の改修・整備なども含め算出している。

職　員：学校については大規模な建て替えなどが必ずしも入っているのではなく、今現在見込まれている計画の中で実施予定の改修などの数字を反映させている。学校の整備については教育委員会のほうで計画を立てて進めていく。

町民Ｈ：町長が拠点としての文化的施設が建たなくても十和分館をという話だったが、現状でも望ましいとされているという蔵書数が足りていないという説明だった。図書館大会に参加した際、オーテピアの話があった。印象的だったのが、大企業が大規模な移住を進めている中で、移住先に望む中に「図書館の充実」や「生涯学習や教育環境」を求めてい

る。趣味・娯楽ではなく、自分たちの生活にとって欠かせないものと捉えている。四万十町の自然がいくら豊かでも、選択肢にあたらないと判断されるのではと考える。県立の図書館との関係性を考えると、やはり拠点(本館)をしっかりしていただきたい。

職　員：常世田教授が参考にされたのは大東建託が調査されたもの。住みたいまち・住みやすいまちランキングなどを調べたもの。教育環境、図書館のあるなしが住みたいまちへの影響が大きく、図書館のある教育環境が優れているとして多数取り上げられていた。

町　長：文化的施設がひっくり返るとは想定していないが、指摘もうけている。しかし、移住者やＵターンの方にとって図書館は当たり前の施設、可能性のある施設と考えられている。また、図書館そのものを否定している人はいない。事業費の問題。私の責任としてしっかり説明し、整備をしていく。「もし」という表現としてご理解いただけたらと思う。一体的な整備が必要。循環型の蔵書の入れ替えなど十和の補填もしていきたい。

町民Ｉ：財政規模について、華美なものができるのではないかという指摘をされている人もいるのではないかと思うが、今日の説明で財政的に問題ではないことが分かった。また、県内の図書の状況として、今はマイナスの状況であり、文化的施設ができてもプラスではなく、単なるスタート地点に達したにすぎないこともよく分かった。オーテピアが県内市町村をサポートしており、高知県の議会だよりではこども読書活動推進計画では市町村へのサービスの充実が掲げられているが、十分に活用されているとはいえないと書かれていた。それは各市町村の図書館のベースが弱いということ。職員が仕事をしていないのではなく、人も少ないし、働く環境としての官製ワーキングプアも全国の図書館的に問題になってきている。蔵書の冊数もそろっていくが、本を選ぶのも人。十和地域の人が日常的に通うのは難しいが、学校図書館・サテライトとの連携、デジタル化もしていただけると聞いている。私も学校図書館の手伝いをしているが、人がいない図書館でいくら本が増えても、いくら予算がついても、そこに本を手渡す人がいないと子供たちに本は行き渡らない。拠点となる図書館が財政的に問題ないのでなければ、計画通りスピーディに進めてほしい。文化的施設の検討が始まったときに赤ちゃんだった子供も、来年小学校に入る。子供の成長は早いので、今いる子供たちが十分な教育環境と充実した子供時代を送れるように、計画通り当初の予定で進めていただきたい。

町民Ｆ：重なる部分があるので続けて発言させてほしい。一町民としても来ているが、PTA 役員もやっているのでその立場として発言したい。保護者同士の話の中でもでてくるので、お願いしたいが、文化的施設ができても十和地域の人は西土佐に通うだろうと思う。それは利便性であったり、ついでにスーパーに寄れるなど生活圏の中にあるから。しかし、市外になるので、資料も取り寄せができなかったりするなど、肝心な機能が使えなかったりする。子どもたちが図書館の価値や活用の仕方をどこでも学べずに中学卒業まで育ってしまうと、高校生や大人になったときに図書館、ましてや美術館なんて何をし

に行くところという感覚で、育ってしまう危機感がある。分館の話も進めてほしい。今も旧小鳩でサテライト貸し出しをやっているが、放課後に子供たちだけで行くと心配もあると思う。運営者と保護者の連携ができているので、今でこそ事故はないが、公共の場であるということ、地域の人が行きやすい場所であることが一番望ましい。そういった点も踏まえながら、十和分館も早く丁寧に話を進めていってほしい。

町　長：事業費が増額したということで町民のご理解を得ることは大前提。しっかり意見を聞きながら方向性を決めたい。本当は２期目でやりたかったが、色々課題もあった。十和分館も早く整備・連携できるようし、選択できるようにしたい。四万十市と情報共有し、市長とも協議させていただく。選択できることが大事。環境が整うよう頑張っていきたい。今日は議員さんも来ているので十和分館も含め、できるだけ早く子供たちの利用に供するように、子どもだけでなく、生活の中での調べものやコミュニティなど前をみた素晴らしい状況を描けるので、実施計画も作って取り組んでいきたい。まずは継続費を認めてもらうことが大前提。

職　員：昨年、この室ができ、文化的施設を担当させていただいている。紹介が遅れたが、津山市立図書館の館長を務めていた大河原も昨年４月にきた。そういった中で、自分たちとしてもしっかりと進めている。不安になることもあるが、温かい声に勇気をいただいた。頑張っていきたい。

町民Ｊ：窪川にしても十和にしてもできてもらわないと困る。今日は議員さんもいるので要望したい。十川にできても窪川にできても、車を持っている人や沿線上に住んでいる人しかほとんど使えない。自分の住んでいる大道に向けて来るバスも週１本。窪川に行くとしたら泊まり込みで行かないといけない状況。バス停までもいけない人もいる。四万十町に住んでいる人全員が使えるようにしてほしい。そのためには、アクセスも考えてほしい。

職　員：四万十町は広く、集落もあちこちにある。移動図書館車を１台導入して、来年度から運行するということで、どこを回るかを計画しているところ。実際のところ、全ての集落、個人のお宅までは行ききれないだろうと思う。例えば、デイサービスなど人が集まっているところから始めていくが、「この地域に来てほしい」や「本を使いたい・取り寄せたい」など要望があれば相談いただいて方法を考えていきたい。一度にすべてということにはならないと思うが、少しずつでも積み重ねていきたい。まずはそのお声を届けてほしい。

町民Ｊ：いまある窪川、大正の図書館があることを知らない人もまだ多い。具体的に「農業でこんなことができますよ」など図書館の使い方を発信したらいいと思う。子供が使う施設だと思っている。

職　員：まさにそのような貴重なお声が聞こえてきているところ。おっしゃられるご指摘の通り。四万十町は施設や蔵書の問題、職員がいくらがんばってもという問題がある。私たちもできるだけ動いていきたいと思っている。図書館の中にいて「来てください」というだけでなく、外に出ていくことを積極的にやっていきたい。そういった部分も含めて、図書館の使い方をお知らせしていき、利便性を高めることを考えていきたい。

副町長：先ほどおっしゃられた、文化的施設、大正分館、十和の分館へのアクセスについても十和まちづくり推進協議会で提案も受けている。予土線が厳しい状況にもあるが、提案について企画課の公共交通の位置づけで取り組んでいく。

職　員：今日は十和の地域振興局長も来ているので、しっかり十和の問題としても考えていきたい。

町民Ｋ：図書館も美術館も内容が大事であって、建物ではない。建物のコストをもう少し安くして、なんとか十和の図書館を建ててほしい。建築はこれで精一杯安いのか。

町　長：これまでも事業費の精査もしてきた。今の面積で例えば書架の間隔が 1ｍ30 ㎝という点など決して過大なものではないと確認している。事業費に関してもこれが精一杯ということですので、今後入札した際に幾分か下がる分はあるかもしれないが、逆にそれを上回る物価高が予想されている。

町民Ｋ：木造などではなく、ドームなどにするなどコストを下げる方法は考えられないのか。

町　長：令和２年度の段階であればそれも考えられた。その都度、基本構想、基本計画を策定し、それに基づいて設計をしてきている。その段階でやらないと、もう一度手間をとるようになると、幾分かのお金がロスになる。また、先ほど説明したように、合併特例債の借入期限も厳しくなる可能性もある。我々行政としてはそれぞれの手続きの中で進めていることなので、いま急遽変えることは困難。そこを減らさなくとも十和分館はしっかりやっていきたい。検討委員会でもご意見をいただいたり、熱心にワークショップもやっていただいた結果。サービス計画などを否定することもできない。皆さまから提案も頂きながら進めてきたので、今のまま進めていきたい。

町民Ｋ：私はあまり図書館を利用したことがないので偉そうなことは言えないが、今コロナ禍にあって、戦争があり、物価が上がって、生活が苦しくなっている。そのときに文化的施設が本当に必要なのか疑問。やはり教育が足りていないのか。

町　長：文化的施設の説明が足りていないこともある。それに加えて、私もそうだが、図書の団

体貸付などそういった文化に慣れていないということもあると思う。私はこれまで９年間の中で特に人材育成をやってきたので、可能性はつぶしたくない。ここにきて、生まれて生活する人の環境を整えるべきだと思う。

町民Ｋ：その説明を聞くと、図書館が大事ということがよくわかるが、それよりもまず生活のほうが、生きていくことが大事で根強く反対のほうに気持ちがある。図書館が必要だから、もう少し小さくして、もう少し分散して、他のことにも色々使えないか。

町　長：分散してしまうとどうしてもそれぞれに経費もかかる。将来的なコストとしては、一定複合的な施設として運営していかないとそこに税金がかかる。なるべく効率的に考えたのが４つの機能を持たせた施設。十分に厳しい状況もわかっている。例えば商品券の提案もしているところに、マイナンバーカードの普及も必要だったので生活支援というところで提案もさせていただいた。まだまだ先も見えないので、課題があればご意見いただき、対応を考えていきたい。

町民Ｈ：資料の中で年代をおって書いているが、コロナが始まったころを入れたらどうか。コロナのために遅延したこともあったし、あとから振り返りもしやすいのでは。先ほど交通弱者にどういう措置があるかもあったが、検討委員会発足のときは当時の arg からドローン配送を提案されたときは驚いたが、今となっては現実的になってきた。文化的施設が環境を整えていくのに相性がいい施設だと思うので、積極的にそういったことも取り入れてほしい。車だけでは対応しきれないのが中山間部の悩みでもあるので、そういったところにも力を入れてほしい。保育園の保護者会の会長もやっているので保護者としての意見だが、今日は教育委員会の方もいるので、十川と昭和において分館の問題がでたときに、学校の改築の問題や学校を一体どうするんだという話を進めていかないと中々まとまらない部分もある。まちのデザインとして色々丁寧に考えていきたいと感じた。

職　員：ご提案ありがとうございます。ドローンなど先進の技術についても、日進月歩で色々できるようになっているので、できる限り取り入れていきたい。十和分館については保護者の方にもお話をしていただいたほうがいいし、局も含めスピード感をもって進めていきたい。

町民Ｌ：分館も文化的施設も大賛成。子どもたちに関わっていて感じるのは、１番最初に本に出合うのは親御さんの読み聞かせ、次が学校図書館。十和分館ができようと、本館からのサービスがよくなろうと、「借りよう」という気持ちがないとそのサービスに届かない。まず「借りよう」という気持ちを生むためには学校図書館がもっと積極的に関わっていく必要がある。学校図書館はこどもたちが出かけていかなくても本に毎日出会える場所。良質なものがたくさんある場所でもある。今その学校図書館が活用できていないと

感じる。コミュニティスクールの実施も考えていると思うが、先ほど施設に行くのが難しいという声もあったので、学校図書館を地域の人にも開放するなど、コミュニティスクールの中にそういう要素を取り入れるなど考えてくれたらいいと思う。

職　員：学校図書館の支援・並走はサービス計画でも検討してきている。学校図書館にあるべき本と、公共図書館が持っておいて必要なときに学校図書館に貸し出せばいいものもある。その辺りを役割分担をしながら、お互いの資産を上手に持ち合いながら使える仕組みを考えていきたい。

職　員：学校図書館がうまく使えていないという声をいただき、確かに学校ごとによってそういう状況もあると思うが、学校長に伝え有効的に使えるようお願いしていきたい。また、コミュニティスクールについて地域の方々と学校運営についてともに考えていただく機会にもなる。

町民Ｌ：言葉が足りなかったかもしれないが、学校図書館がうまく使われていないのは、学校の先生に問題があるのではなく、小規模校で先生も人数が少ない中、複式(学級)や図書の担当なども持ち手一杯になっている。先生たちがさぼっているというわけではない。学校司書をおくのは難しいとは思うが、施設ができるのであれば、そこをフォローできるような仕組み・力強い支援ができればといいなと思う。

職　員：サービス計画の中でも文化的施設と学校図書館との連携も謳っている。学校図書館と文化的施設の蔵書を共有化できるようなシステム化も考えている。

町民Ｈ：1 年ぐらい前に教育委員会から統合について話があったが、そういったことは今計画に入っているか。

教育長：小学校の統合については、令和 7 年 4 月以降、方針のもと協議を進めていくとお伝えさせていただいた。次の段階の説明や意見交換はできていない。小学校の統合については地域の思いが強いところもある。各地域でそれぞれの取り組みもある。十川小、昭和小の統合については今後もそういう機会は設けたいと思うが、その前段で十川中学校、小学校の校舎の改築もしくは補強の協議を進めていく。十川中学校のこともあるので、昭和小の保護者の方も含め、話し合いを持っていきたいと考えている。小鳩保育所も立派になり、近くなった。図書館機能のサービスについては密接な関係にある。そこも含めて協議をしていきたい。

職　員：【補足】施設の規模について。担当した身として、我々が受けたオーダーは図書館・美術館ということで、ただ本を並べたらいいわけではなく、「ちゃんと図書館、美術館として最低限機能する施設を作る」ということで、そのように設計者にもオーダーした。自分

は財政も担当していて、予算を切っていく立場でもあったので、自分のところだけ予算を過大に使っていいわけではないことも分かっている。設計者には機能を維持しつつもこれ以上切れませんというところまで切ってもらって、「これ以上は勘弁してください」というところまで作り上げてきた経緯もある。正直見た目の方は、梼原町のような派手さもなく、町民の方から「あまりに地味なので老人ホームかと思った」と言われたこともあるが、派手な施設はいらないので、最低限の機能が維持できる施設を作り上げてきた。コロナ禍でという話もあったが、確かに今つくる施設が、これまでになかった施設を新しくつくるということであれば、そういった議論もあったと思うが、今現実に図書館と美術館があってかなりの問題を抱えている。その問題を解決しないといけないリミットがすぐそこまできている。老朽化も進み、実際に絵画のダメージも出てきている。本来であれば早急に対応しなければいけない状態。それを考えたときに合併特例債の財源の期限も令和7年まで迫ってきている。仮に小さい施設にし、実際に金額が安くなったとしても、この大きな財源を手放すことで、実際に自分たちが負担しなくてはいけないお金が逆に増える可能性もある。いまこのタイミングで財源や町の負担などそういった点も加味して町民の皆様には一緒にご検討いただけたらと思う。

【閉会あいさつ】

教育長：29年度から進めてきた計画で、実施設計が出来上がったが、住民の皆さんの一番の課題は資材単価の高騰、これは公共事業すべて。大阪万博のあるパビリオンでも70数億が111億になった。大阪府と大阪市が負担しなければならないお金が1.5倍となっている。ただ、先ほど説明にあったように、財政計画では増加分を見込んで、さらにランニングコストも見込んだ財政計画、シミュレーションをし、健全財政を維持できるとして、皆様に説明をさせていただいた。十和分館の計画もある。密接した施設であり、文化、生活の営みだと思う。全国では図書館サービスの充実により、まちづくり、地域の活性化もされている。この施設が出来てスタート。皆さんと一緒に育み、作り上げていく施設でもあり、十和分館の新たな芽を生み出さなくてはいけない時期でもある。施設、サービスともにご理解いただきたい。

R4 文化的施設「町民説明・意見交換会」発言要旨【窪川会場】

日　　時：令和４年 11 月４日（金）18:30～20:30
場　　所：役場本庁東庁舎１Ｆ　多目的ホール
参 加 者：55 名
託　　児：子育て支援センターから保育士２名、利用あり(1 世帯２名)
取　　材：高知新聞
役　　場：中尾町長、森副町長、山脇教育長、浜田教育次長、味元生涯学習課長、大元政策監、大河原室長兼図書館・美術館館長、西尾次長、冨永主査、松下主任(文化的施設整備推進室)
配布資料：① 令和４年度　文化的施設「町民説明・意見交換会」資料
② 文化的施設チラシ No.15「配置・平面計画が決定しました」
③　　〃　　No.19「外観や施設内のイメージ発表」
④ イベント「四万十駄場フェス（11／23㊌開催)」案内チラシ

１．開会あいさつ（町 長）
２．職員紹介
３．事業説明（40 分程度）
(1) これまでの経過と今後の予定
(2) 実施設計の結果
(3) 町の財政見通し
(4) 現状と課題の確認
(5) サービス計画と施設の必要性
４．質疑応答・意見交換
５．閉会あいさつ（教育長）

【開会あいさつ】
町　長：H28 年に関係者等と協議しながら、H29 から新たに基本構想、基本計画、基本設計、実施設計と進めてきた。そのときそのときご意見をいただいたり、議会の中でもご意見をいただいた。今回実施設計ができたところで次のステップへ進む前に、当初予定していた想定額を超えているので、その説明をさせていただく。それに加え、財源の内訳や心配される今後の町の財政状況などをしっかりとお伝えすることで、次へ進んでいきたい。サービス計画もできているので、そういったこれまでの経過なども含めて説明させていただきたい。私もこれに関わって現在７年目になる。非常に色んな方からご意見いただくが、委員さんや議員さん、様々な方に必要性は感じてもらっている。そのことも含めて説明させていただき、様々なご意見をいただければ非常にありがたい。町の中で課題のある施設を更新していく中で進めているので、ご理解いただきながら前向きなご意見をいただけたらと思う。

【意見交換内容】

町民M：財源はよくわかった。コロナ禍、物価高騰で苦しい人が多くいる。そういう人に手当はできていないと思っている。そういう状況でH29からやってきたが、これでも進めるのか、他にすることはないのか。

副町長：コロナ禍、物価高で生活が非常に厳しい中で手当てができていないとの質問だが、町のほうでは物価対策、コロナ対策として例えば6月補正予算として金額は少なかったが、全町民へ5千円の商品券の配布している。また9月の議会では物価高対策として商品券をマイナンバーの取得と合わせて3万円配布し、そういう対策をしている。12月にも議会でも議決されれば、農薬などの資材費の補助、電気料金の値上げの対策などもやっていきたいと考えている。決して町民の苦しい話に背を向けているわけではないのでご理解いただきたい。

町民M：本て食べれるの？美味しいの？という話になる。5千円や3万円で豊かな生活を安心して送れるのか。町のHPトップには「にんげんにこれ以上なにが要る」とあるが、誰に向けていっているのか。イメージとしては町外の移住者に対して、「四万十町に来れば安心して暮らせますよ」というアピールと思うが、興津や志和に行くと疲弊している。3千・5千・3万円で安心して暮らせると考えているのか。そういう姿勢がHPにでている。ありもしないものがさもあるかのように。70代を越えて、一人暮らしで、ごみ屋敷で、冬前に凍死するかもしれない人のケアができていない。結局、四万十町では受け入れ先がなく、短期の施設をたらい回しにされ、点々とし、その人は現在中土佐町に救われている。20代の女の子は、公共交通がないために、車で学校に行っているが、必死にバイトしている。ガソリン代が急激に上がって困っている。手当はないのか。本当に困っている人がいる。

町　長：町としてはそういったところの実態をしっかりつかんでいく。民生委員や社協もあるので詳細を掴みたい。それをやるから支援をやらないのではない。必要であれば支援をしっかりやっていくし、当然そういった課題もあると思う。町としては必要なことはやっていくスタンスでいる。そういった情報提供をいただきたい。ストレートに入るのは商品券ということでやったが、今日のご意見いただいた上で協議していきたい。子育て支援も令和5年度は力を入れ、教育環境なり整えていきたい。ガソリンなどについては個別に研究していく。

町民M：どういう考えでやっているのか。町民のためなのか。町民の利益なのか。建設の20億の何パーセントが町民に落ちるのか。できてから後、何パーセントが町民に還元されるのか。他でもやっている。米こめフェスタもそう。何年も言ってきた。担当職員や課長、実行委員会にも言ったが何も改善されない。町外のイベント会社にお金を払ってテントを立てたところで商売している。そんなお金は子供にあげたほうがましとずっと言って

きた。それを改善できない町長と町の幹部がこれをやろうとしている。町外の企業に設計・施工を頼み、どれだけ町にお金が落ちるのか。そういう考えのない人間がこれを計画している。

町　長：受け皿としてなかった。内容を整理し、引き続き検討する。今日は文化的施設の中身に入りたい。

町民M：これは将来を考えたものの話をしている。いま四万十町が抱えている問題は人の話。「にんげんにこれ以上なにが要る」と書いている。あげあし取りではない。ずっと言ってきたことが改善されず、全世界に公表されている。そんなことを思っている人間が、ごみ屋敷から這い出て、久礼で世話になっている人に「20 億使わせてください」と言ってください。ガソリン代を必死で稼いでいる学生に「20 億使わせてください」と言ってください。HP では「にんげんにこれ以上なにが要る」とある、そんな人間がどこにいるのか。今日来ている人はみんな生活にも時間にも余裕がある。

町　長：この 20 億をそのまま持っていくのではない。有事を想定して貯金もしている。そういった意見も取り入れて、合意を得られればやっていきたい。

町民N：施設は要るだろうが、人がいなくなったらどうするのか。果たして実現するのか。窪川だけでも世界から認められる子供支援を 0 歳から 20 歳頃までお金が要らず育てられる計画を立てていているのであればわかる。子供がいないと施設があっても何にもならない。人を増やさないといけない。四万十町もやっているが、そんな細かいことをやっていたら、他の県が先にやる。さくらマラソンと一緒。子どもが育てられる町だと、その上であれば全反対はしない。あれもやりこれもやりではない。建物が建つからいいだろうではない。反対はしない。ただ、子育て支援として 0 歳から 20 歳までお金をいらないようにしてほしい。子育て世代にもお金を手厚く。子どもを産める町にしないと納得いかない。

町民M：子育て支援をやる話を今日しないとこの話は棚上げ。子どもに直接支援をしたらいい。

町民O：反対意見がすごく多いと思うが、納得されていない人が多いと思う。自分の感覚だが、議員さんは半数以上が可決されるようなことなのでそうなのかもしれないが、町民としては 9 割方反対されていると思うが、なぜ納得されていないかお分かりか。

町　長：その時期その時期に決めてきたことがある。その段階での議論がなく、そのときには関心がなかった。行政としてはその都度その都度議決を受けて進めてきた。ただ今となって反対意見があり、行政の動き方としてはなかなか元に戻ることが出来ない。議員さんからはそれほど否定するもではないと聞いている。額の問題はあるが、これまで意見を

聞きながらやってきた。この過程を大事にしたい。町の財政に影響なくやっていけると判断させていただいているので、今日は意見を聞きたいと思う。

町民Ｏ：費用対効果が得られないと思う。お金の問題だけでなく、人口の問題など、この先どうなるかが書かれていない。民間であれば数値を入れてやると思うが、そこが全然見えず、みんな納得できない。この先どうなっていくのか聞きたい。この建物を建てて数字的に何が伸びていくのか。

町　長：出発点は、この施設が普通でない状態というところからはじまっている。先ほどお話したように、高知県平均や全国平均などの話もあったが、私は人材育成を精一杯やってきた。この町には高知市に次ぐ移住者もいて、話すことがあるが、自分たちの教育・生活のなかで図書の環境が必要と聞く。今回は劣悪な環境をまず改善していくこと、一定人口は減っても機能は維持したい。図書館があることによってアピールさせていただき、武器として移住・定住・人材育成・子育てや教育に使っていただきたい。費用対効果をなかなかそこで出すのは難しい。間接的な効果として図書館を利用していただくことで、文化的な町になるのではないか。建物ができたあともそういった事業をしっかりとやっていきたい。費用対効果ということでなかなか数値的なことは出せないが、改修・改善からはじめ、子どもたちの成長過程で必要なものに加えて、コミュニティの機能としていきたい。

町民Ｐ：資料 p.5 のランニングコスト年間 8000 万円があがってくる可能性はあるのか。今後人口が減少していく中でこれをどう賄うのか。町民１人１人が税金で賄うのか。一人当たりの試算はされているのか。

職　員：ランニングコストが増えていかないかというご心配はごもっとも。ランニングコストを見込むときに一定の余力も持ちつつ、今後光熱費などが増えていくことも加味しているので、運営としてはこれの範囲内と思っている。人口が変わってきた場合にはもちろん負担額はそのときそのときで変わってくるものにはなる。しかし、財源として過疎の基金などを活用し、計算した。一人当たりは今でている数字を将来的な人口で割る形になる。

町民Ｐ：一人一人の負担が、人口が減れば負担が増えることが分かっている事実を受けて本当にこの規模が適切か。確かに写真も見せていただいて、確かに図書館も老朽化もしていて、文化的施設はつくるべきとは思うが、規模の問題。どこにどれだけお金を使うかなどもう一度着手する前に検討していただく機会はあるのか。

職　員：ランニングコストは示している８千万円という数字があるが、将来の人口によって変わってはくる。一方で、資料費など図書の購入費を増やしていったりだとか、職員の配置

など人件費を増やしっていったり、移動図書館の経費なども含めた数字。将来的に人口が半分になったときに、果たして資料費がそのままでいいのかというのは考える必要がある。そのときそのときで見直していく必要はある。

町民Ｐ：この建物自体の規模が必要と考えるか

職　員：先ほど施設の概要を示させていただいたところだが、今の現状から最低限必要な規模。書架と書架の間隔など、今の基準にあてはめると一定この規模は必要になってくる。これが将来例えば８千人になるからということで、８千人の規模に合わせるのではなく、今いる方にしっかり使っていただくために、今の規模が必要と考えている。

町民Ｑ：今の図書館の利用者数は？

職　員：昨年度で本館１万５千人弱。大正分館をいれて２万２千人ほど。

町民Ｒ：ハード部分の説明だったと思うが、ソフトのことを要望したい。平成の初め頃いわれた「コンピューター、ソフトがなければただの箱」と言われた。この施設についても、ソフトを充実していただきたい。学校教育、社会教育、家庭教育。社会教育主事を育ててほしい。これはランニングコストに関わる部分だが、町民のために役立つようにしていただきたい。家庭教育、非常に大切だと思う。家庭教育は親が行うもの、学校は資格を取った方が指導しているもの。人格形成は３歳児までに形成されると言われている。家庭教育に社会教育主事が教育プログラムを作ってやってほしい。「人は教えられないと歩かない」とは思わない。オオカミ少年の話から家庭教育の大切さを教えていただいた。文化的施設は空港でいえばハブ空港のようなもので、色んなものが行きかう施設になってほしい。もう１つは、健康寿命を延ばすことに充実してほしい。健康がなければ人生すべてがはじまらないとも言われる。そして、デジタル時代の文化施設ということで、県の施設とのつながり、書籍が最下位という話もあったが、県の本を借りる、電子書籍をタブレット端末の充実などをしてもらいたい。司書・学芸員などの人数はどのように考えているか。町民の幸せになる施設にしていただきたい。

職　員：司書・学芸員は採用にむけて動いている。現在も司書資格を持った職員もいるが、できるだけ正職員として採用しようとしているところ。

副町長：社会教育主事は当然生涯学習や家庭教育というところでキーパーソンとなる。今、町でその資格を持っている職員が何人かいる。大学で夏季講習 40 日間で取得できる。これからも社会教育主事の育成に努めていきたい。

町民Ｒ：以前の説明の中では、施設にきて皆が「思い思いのことを」とあり、それも大切だと思

うが、主体的になってカリキュラムを組んでいってほしい。

町民Ｓ：p.3 にあるように、最初 15 億であればと思っていたが、１年足らずで 1.5 倍の高騰。最終的に 23 億でできるのではないかとなっているが、今の円安、物価の上昇をみていると果たして 23 億でやれるのか。今日の会は p.2 にあるように実施設計が完了しているので、増額に対する判断が求められているということになるが、設計を見直すといいうことにはならないのか。施設はこれで決定で、この金額でやるしかないのか。例えば実施設計を見直して、規模を縮小できないのか。席も 100 席ということだが、マックスでも 50 人しか入っていないと思う。見解はどんなものか。

職　員：設計の見直しについてお答えさせていただく。この設計に関しては、p.2 にあるように基本設計ができ、それを受けての実施設計ができている。基本設計が令和２年度中に完成しているが、この基本設計にあたってもプロポーザル(業者の選定)をし、提案を求めて、業者を決めて進めてきた。仮に規模縮小ということで設計を見直すことになれば業者の選定のやり直しなどこれまでの作業を大幅にやり直さないといけない。さらに、基本構想や基本計画での複合施設や規模に基づきやってきた。見直しとなるとかなり戻ることになり、合併特例債という財源が使えくなってくる心配もある。そういったところも踏まえて、設計の見直しというのは考えていないが、説明させていただいたように必要なことを踏まえた 2000 ㎡という規模が適正と考えている。今の設計のままで費用を圧縮できないのかというところも設計業者とかなりつめてきた。この設計であればこれ以上は難しいというところまで協議をしているのでご理解いただきたい。

町民Ｓ：梼原の雲の上ホテルもこのような状態で中断した。もう少し時間をかけて町民に説明をしながらやっていくと聞いた。四万十町の場合はその年度には作ることが前提ですよね？「作りたい」という方向。今日の意見も聞くというのは具体的にどういうことか。

町　長：梼原町の場合は図書館は 12 億円でできている。ホテルは大幅に増額し、見直し中とのこと。基本構想、基本計画には着手していない。四万十町は基本構想、基本計画ができ、さらには検討委員会やワークショップなどの積み上げでやってきたので違うのではないか。今日の趣旨としては議会側からも指摘を受けているし、「財政は大丈夫」というのが今日の争点。　継続費は認められている、増額分に対しての判断。町としては遂行する責任がある。基金や公債費など示しながら、町財政に与える影響は極めて少ない、健全財政を維持できるという視点で今日提案させていただいた。財源的にも事業費的にも増額はしたが、十分耐えうる財政力があるので、責任としてやっていきたい。今日ご意見いただいた中で見直すべきところは早急に内部で見直す。大正・十和でも様々なご意見をいただいた。こちらの会場でも「事業費増額に対する意見があれば言ってほしい」といった趣旨で本日開催させていただいた。私としては、これまで進めてきた責任上、遂行しなければならないと考えている。

町民Ｔ：３つの選択肢があると示している。意見交換会で町民の意見を聞いて決定するのでは。町長はやると言うが、他にも選択肢がある。今後の３つの道を説明してほしい。

職　員：９月議会で説明させていただいた内容になるが、こちらで示したのは行政の選択肢ではなく、議会・町民の皆さまが考えうる選択肢というところで３点挙げさせていただいた。①このまま設計などを見直さず進めていく、②施設規模や実施設計を見直すなど事業費を見直す、③休止。今、町長が申し上げたのが、行政としては①として進めていきたいということでお示しさせていただいた。こういった場で皆さんの意見を聞いて決定させていただきたい。

町民Ｕ：今、１歳と３歳の子供を育てている。図書館は月２，３回利用し、30 冊ほど借りている。四万十町で子育てしていて思うのは、雨の日や休日に子どもを連れていける場所がないこと。子どもと遊べる施設がないことに困っている。子どもを連れていける居場所が増えることに１番期待している。反対意見がいっぱいあると思うが、計画がのびのびになっているので、令和６年度までにしっかり開館できるのか不安。また、町民税は増えるのか。

職　員：この後議会なども色々あるが、令和６年度中の開館に向けて進めていきたい。また、財政シミュレーションでお示しさせていただいたように、それによって税の負担が増えないように進めていきたいと思っている。

町民Ｕ：子どもの居場所を増やしてほしいので、本だけではなく遊ぶところもお願いしたい。

職　員：２階にはキッズコーナーがある。小さなお子様が靴を脱いでも大丈夫なおはなしスペースもある。キッズトイレも用意している。また１階にはあまり広くはないが、中庭があるので外でも遊んでいただける。

町民Ｕ：貸し出しは１階なのか。

職　員：メインの窓口は１階だが、２階にも簡単に操作をしていただける端末を用意する予定。

町民Ｕ：できればこどものコーナーにも、職員の目が届くような形にしてほしい。

町民Ｖ：四万十町は特にたくさんの山と木があり、これは財産。今回の施設がオール木造でないのは残念だが仕方ない。町有林がたくさんあると聞いているが、使用木材の何パーセントを町有林から切り出すのか。建設するのに、できれば四万十町内の職人を地産地消で使っていただければ、皆に喜ばれる。そうすることで町民が元気になる。大工さんや左

官さんを高知市から雇えば皆に喜ばれない。先ほど意見もあったように、ハードも大事だが、ソフトも大事。これからの子供たちを元気に、役に立つ施設になると思うので、施設に僕は大賛成。

職　員：町有林という形では計算できていないが、町産材を使うようにしている。基本的に木材は四万十町内で調達するようにしている。地域への経済波及効果とういう話だと思うが、大きな工事になるので、本庁舎を建てたときのように、大きな建設会社と JV(設計企業体)という形にはなると思う。できるだけお金が地元に落ちるようにと自分たちも考えているので、一括で発注するのではなく、分離発注で本体工事、電気設備、機械設備、木材調達、備品購入などできるだけ細かく地元の企業が参入できるように発注のほうをしていこうとしている。

町民M：20 数億の何パーセントが町に還元されるのか。

職　員：発注の単位になる。JV がどういった契約になるのかは答えられない。

町民M：町民の利益を考えてやらないといけない。町の業者でできない設計をしていることが問題。JV など簡単に言うが、そもそもそんな建物が必要か。議員は議会で反対意見を出してきた。それを突っぱねてここに至る。ここは町民の意見を聞くところ。町長はそういうつもりはない。何を言おうがやるのだから、それを許していいのか。先ほどの方が「子どもと遊びにいくところがない。」というのは非常に残念。僕が預かっている社員や知り合いは経済的に疲弊している。子どもと遊ぶ時間すら取れない。そういう人がいるということを考えてほしい。

町民N：子育て支援のほうをきっちりやってくれるか町長に聞きたい。

町　長：来年度予算ではバージョンアップしてやっていきたい。今日の意見を聞いて、職員の予算説明会も近々あるので、精一杯議会にも提案させていただきたい。

町民N：原発にならないように。内容は違うがそういうことにならないように。太い業者の下請け下請けで値切られて値切られてやるのではなく、直接その人に利益がいくように。

町　長：先ほど説明させていただいたように、なるべく地域密着を基本に精一杯やる。

町民W：p.3 にある 8 月時点のものが 10 月時点で下がっている理由はなにか。

職　員：８月に設計業者が各社に見積もりをとっていたが、９月に価格改定があると説明を受けおり、それに基づいて試算していたが、資材を扱うメーカーが９月に改訂を行わずに年

末に値上げをスライドさせるというところがあった。そこで差がでてきた。また、設計が終盤になった際にVE(バリューエンジニアリング)し、出来上がった設計をみてさらに削り込んだところのお金ということで少し下がった。

町民W：当初の話は図書館からはじまった。どこに作ったらいいかとなって旧庁舎跡地になり、面積が決まって2000㎡の規模が示され、そこに複合的文化施設ということで、ここまで7年かけて作り上げてきた。今の人口で、この規模でというが、みんなが心配しているのは人口減少の中で、この23億の施設が維持できるのか。きらら大正なんかをみていてもそうだが、このままこの施設をつくっていいのか、その心配。資材単価の高騰、資材が入ってくるかも見えないままここで急いでやっていいのか。3つの選択肢があるのであれば、建設ありきの話ではなく、もう少し住民の意見を聞き、執行部で進めていいか真剣に考えてやるべきではないか。

町　長：将来に負担がいくランニングコストは持ち帰って研究し、議会で説明していきたい。

町民W：今日の説明会はかなりの人数が来ている。今までにない人数が来ている。実施設計ができる段階でこれだけ関心が高まっていること。町民の意見をしっかりと受け止めてほしい。

町民X：私は子供のころから図書館を利用してきた。確かにコストがかかることは心配している。ただ、先ほどの住民の9割は反対しているだろうと発言があったが、それはその周辺の声の大きい方が言っているのかもしれないが、そうではないと感じている。議員の方々も議論しているが、ぜひともできる限り、私たちの将来ランニングコストをおさえるような運営で。町民Mや町民Nも町民のことを心配しての熱い意見だったと思うが、自分は色んな立場の子どもさんと接する機会があって、子供の居場所がないことが身に染みて分かっている。そのためにも、地域の福祉のためになる。ただランニングコストという点では十分検討していただきたいと思っている。

副町長：ランニングコストについて、図書館司書や学芸員、社会教育主事についてのご指摘もいただいた。人口が減少していく中で、役場の職員数も当然減っていく。いわばハードからソフトへの時代転換。人件費、職員総数も抑えながらランニングコストも抑えていく。合わせて、職員の質の向上・育成に努めていきたい。

町民Y：町長が9月議会で3つの選択肢を示し、①でいきたいということでそれを受けて。ふるさと納税など外の方のお気持ちなどを考えて、また、子供が増えていく施策を町長に語っていただけたら町民ももう少し納得いただけたかと思う。設計は外部の設計。ここに住んでいると、このあたりの風景に広く目をむけるとアプローチ棟の中心辺りには都築邸があるが、そちらの面は閉ざされていて、見えない。駐車場の手前にはお寺がある

が、借景が利用されていない。全体をみたとき、町民も外の方も、文化的施設にきたときに「また来よう」という気持ちになるには借景を活かしていったらどうか。アプローチ棟も都築邸に向けて多目的室をガラス張りにするなど風景を眺める設計に。四万十町の財産なので見るに堪える。お寺は側面が丸見えだが、ここもシンボルツリーなど工夫すればいい風景になる。①とおっしゃるのであれば②の部分も考えてほしい。子供たちの人口が増えていくような町政にしていただきたいと思う。

【閉会あいさつ】

教育長：H29 年度から温めてきたものが実施設計としてできた。そのお披露目と、資材単価の高騰により増額したことを説明させていただいた。今日のご意見では、本当に熱いご意見を頂いた。他にやるべき課題を優先すべきでないかということも十分お聞きをした。反対される方、問題意識のある方々に、なかなか伝わり切れていないこの文化的施設整備計画であったと思う。それは我々も反省しなくてはいけない。施設だけに特化した事業ではないということ、また是非サービス計画もご覧になっていただきたい。この施設に来なければサービスを受けられないということではなく、全世代・各地域にサービスが広がる取り組みを進めていかなければならない。この町を支える子どもたちの育成、我々現役世代が文化に触れ、豊かな人生が送れる施設、町のモデル、PR ができる施設となることを祈っている。今後、ご意見等については、機会があるごとに皆さまにお伺いすることがあろうかと思うが、現段階では 3 つの選択肢の中の①（やむを得ない事情であるため、設計の見直し等は行わずに予算計上）で進めていきたいという町のご提案なので、ぜひご理解・ご協力・ご支援いただきたいと思う。